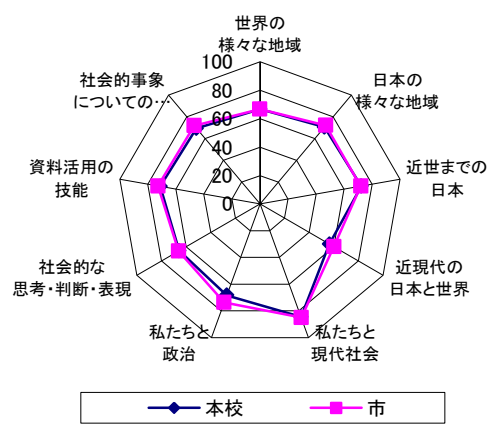


宇都宮市立陽東中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	66.8	66.8	54.1
	日本の様々な地域	70.6	72.1	63.4
	近世までの日本	72.4	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	56.4	60.0	55.2
	私たちと現代社会	84.5	85.0	73.0
	私たちと政治	68.3	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.7	66.1	52.0
	資料活用 の 技能	71.2	72.8	63.0
	社会的な事象 についての知識・理解	69.4	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	・市と比べると、同じポイントをとっている。内容を分析してみると、資料を読み取って解答を記述する問題が市の正答率に比べて、3.0ポイント低い。しかし、図の構成を考える問題では、3.6ポイント高く、資料を読み取って解答を記述する問題については市の平均と同じ値に位置している。	・昨年度に引き続き日常の授業の中で、地図資料や統計資料などを多く用いて、特色や分かることを読み取る活動を取り入れたり、デジタル教科書の導入させたい。 ・記述力を身に付けさせるために、普段の授業の中で用語の意味などを記述させる活動を取り入れていきたい。また、定期テストなどで、解答を簡潔に記述させるような問題を数多く出題し、普段から記述で答えられるスキルを身に付けさせたい。
	日本の様々な地域	・市と比べると、1.5ポイント低い。内容を分析してみると、日本の気候区分と雨温図のグラフを読み取る問題の正答率がかなり低く、市を10.6ポイント下回っている。全国と比較しても4.9ポイント低い。しかし、自然災害や人口に対する統計値などの問題は市や全国を上回っている。中央高地の農業、中京工業地帯、北陸地方の地場産業など市とのポイントの差はあまりなく、全国を上回っている。	・日本のさまざまな地域については、世界の諸地域に比べ、自然環境や産業の特色など、イメージしやすく理解しやすい分野である。しかし、自分の生活範囲の観点から関東地方など身近な地域には関心をもって学習し理解力もあるが、その他のなじみの浅い地域に対しての知識理解が不足していた。各地域の特徴を雨温図とともに視覚的観点から分析理解させる学習をもう一度再確認しながら、日本全体の気候区分やその地域の特性(地形・農業・工業など)を改めて理解し、ワークやプリント、白地図等を使用する活動を取り入れて知識を身につけさせたい。
歴史	近世までの日本	・市と比べると、0.4ポイント高い。内容を分析してみると、縄文時代や奈良時代の領域では、市を2ポイント近く下回っているが、江戸時代の領域では、逆に1ポイント近く上回っている。特に寺子屋の理解が8.2ポイントと上回り、全体的に2.8ポイント高い数値が出た。	・江戸時代は生徒の興味・関心は高い時代である。履修後の時間的な問題もあり、今回は縄文時代や奈良時代のように1年次に履修した内容の正答率が不十分であった。繰り返し復習を行わなければ新しいものは覚えていても、時間の経過した古い歴史は忘れていってしまうことになる。歴史の特性上流れや繋がりに留意し、前の時代とはどのように関わっているのかなど、興味をもてるような資料活用や調べ学習を取り入れ活動させたい。
	近現代の日本と世界	・市と比べると、3.6ポイント低い。内容を分析してみると、日本の産業革命と朝鮮戦争の領域では、1.7と0.7ポイントと市を上回っているが、冷たい戦争と世界の動きの領域で、13.3ポイントと市よりも下回る結果が出た。またこれは、全国よりも8.1ポイント低い結果である。	・近現代の日本と世界については、歴史的分野の中でも公民的分野との関わりが出てくる内容が多く、特に米ソの冷たい戦争(冷戦)資本主義と社会主義との対立に関しては、基礎となる関係が理解されていない状況の中で学習させなければならない内容でもある。そのための簡単な基礎知識をすぐに身に付けられる教材教具の工夫を行うとともに、視覚的感覚から学習内容がスムーズに入ってくる資料を提示し、そこから知識を深めさせたい。
公民	私たちと現代社会	・市と比べると、0.5ポイント低い。内容を分析してみると、情報化の進展の領域で0.7ポイント、対立・合意・効率・公正の領域でも0.3ポイントとわずかではあるが、市を下回っている。しかし、90ポイントを超える結果でもあり、全国からはこの領域については、18ポイントも上回っているので理解はされている。	・私たちと現代社会については、公民分野のスタートでもあり生活に密着した関わりの多い内容である。しかし、身近すぎるため興味・関心をもちにくい内容でもある。情報化社会の今、必ず関わりをもつ内容であるのでしっかりと理解させる必要がある。授業において、身近な例を取り上げて、より現実的な理解を深めさせたい。
	私たちと政治	・市と比べると、5.4ポイント低い。内容を分析してみると、法律案の成立過程の領域が13.4ポイントと低く、また環境アセスメントと議院内閣制の領域が50ポイントを下回り、市からも10.3、10.5とかなり理解が不足していることが分かる。歴史的背景のフランス人権宣言や基本的人権の尊重の領域については90ポイントを超えるなど理解が十分されていることがわかる。	・私たちと政治については、法律案の成立や仕組み、議院内閣制による国会と内閣の関係、また環境アセスメントの理解といった民主政治のに必要な不可欠な内容ではあるが、生徒にとって興味関心はもちにくく、知識として理解するまでに時間を要する内容でもある。国会で議論が行われている状況や現在の生活に関わる事象を提示しながら、授業において新聞やニュース映像などを活用し、時事的問題としてとらえさせ、自分たちならどう解決すればいいかまでを考えさせたい。